

## 千葉県立循環器病センター

大井文江\*

千葉県鶴舞病院が、循環器を主体とする千葉県循環器病センターへと変わり、1998年2月にオープンした。群馬県の循環器病センターが、前橋病院から変わったのと同じである。病院規模や、ネーミングも似ていることから建設中から相談を受けることもあった。また、千葉県より、看護婦の研修依頼もあって、6ヶ月間、4名と共に学ぶことが出来た。このような縁もあって、完成を楽しみにしていた。

完成後、間もない3月に見学をさせていただいた。前日に降った大雪も、さすが千葉県である、暖かい陽ざしが行き先のわだちをたくしてくれた。

センターは、鶴舞病院の敷地内、南側に、そびえ建っている。周辺は雑木林で、自然に恵まれ、四季の変化も楽しめる環境である。建物に入る前の車寄せには、屋根が長く付けられてある。患者さんを大切に思う人達によって、つくられた病院であることがわかる。正面玄関を入ると、エント

ランスホールが、明るく、ゆとりのある空間であることはもちろんのこと、壁面には、芸術作品が設置されている。そこに、外来関係部門がまとめられ、患者さんの移動距離が短く済むように配慮されている。待ち時間を短くするためのコンピューター管理も行われている。

千葉県が、循環器病センターに期待していることが、2つある。1つは、「循環器病に関する高度で、専門的な医療の提供」である。そのために、1階の救急部門には、専用エレベーターが設置されている。3階の手術室と血管造影室には、最新鋭の設備が揃えてある。手術後、血管撮影後の患者移動は、同じフロアーに、ICUと循環器病棟があり、短時間に、安全な移動が可能ないように造られている。全体病床数200床に対し、ICU・CCUは20床あり、将来を見通した、高度医療の為の病院である。心臓リハビリに関しては、今後古い建物を壊して、心臓リハビリ棟を建設予定であるという。すでに、トレッドミル、エルゴメーター数台が、フロアの一角に置いてあった。リハビリテーション科もあり、病院の方針としても、「急性期と退院前準備のリハビリは、病院の役割である」と、している。

もう1つ、期待されていることは、「充実した一般医療サービスを提供すること」である。診療科目は、全科にわたってあり、内容も、重症、複雑、緊急な疾患に対し、総合的な医療を行うこととし、そのための設備も、最新なものを揃えている。中でも、ガンマナイフは、日本でも、設備されている施設はまだ少ない。その治療原理と機器の説明をして下さった担当技師の表情が、印象的であった。それは、県民の期待に応えるべく、技術者としての自信と熱意を持っているという印象を受けた。

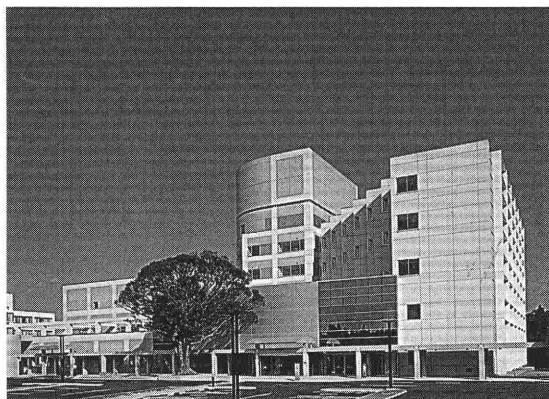


写真1 千葉県立循環器病センター正面

\*群馬県立循環器病センター手術室婦長

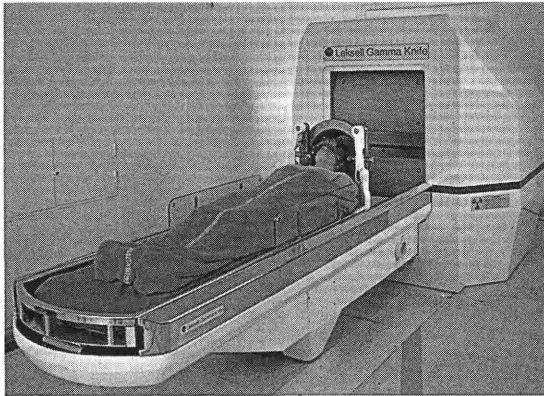


写真2 コバルト60遠隔治療装置 (ガンマナイフ)

設備は、もちろんのこと、職員も一流である。オープンして、まだ日が浅いというのに快く見学を受けて下さった。各部署毎の説明、案内も温かであった。期待どおりの病院になるよう、大きな目標に、職員一人ひとりが向かって走り出しているようである。